

第16回吉備川上漫画グランプリ 入賞作品決定!!

第16回吉備川上漫画グランプリ入賞結果 (敬称略)

「お宝」をテーマに作品を募集した第16回吉備川上漫画グランプリは、審査の結果、次のとおり入賞作品が決定しました。大賞作品と市内受賞者の作品を紹介します。(敬称略)

なお、入賞作品および第一次審査通過作品は、10月28日(土)から11月30日(木)まで、吉備川上ふれあい漫画美術館(川上町地頭)で展示します。(13ページに関連記事)

■問い合わせ 教育委員会川上分室(TEL)482203

| 賞 | 氏名 | 住所 | タイトル |
|------------------|------------|--------|---------------------|
| 大賞 | 佐藤 忠史 63 | 北海道 | センセイ、鑑定を… |
| 優秀賞 | 石橋 弘泰 46 | 佐賀県 | 究極のコレクション |
| 審査員賞 (福永一朗賞) | 中村 稔 64 | 佐賀県 | スター誕生 |
| 審査員賞 (出光永賞) | 花田 功 74 | 福岡県 | 城主さま お宝の虫ぼし |
| 審査員賞 (多田ヒロシ賞) | 小田 高博 56 | 三重県 | 母親にとってのお宝 |
| 審査員賞 (平井一雄賞) | 徳田 栄基 65 | 神奈川県 | 玉手箱のケムリの効き目 |
| 佳作 一般 | 山下ひかる (11) | 笠岡市 | 無題 |
| | 永野 誉玲 (12) | 兵庫県 | お宝出土! |
| | 清水 秀昭 (45) | 笠岡市 | それぞれのお宝 |
| | 花田 衛 (67) | 福岡県 | 釣自慢 |
| シルバー賞 | 高木 宏 69 | 千葉県 | 新地上絵、お宝のありか |
| | 高木 富恵 85 | 高梁市成羽町 | とらさん |
| | 松田テルオ (73) | 福井県 | 俺のお宝(耐震検査) |
| | 横山 信夫 (73) | 倉敷市 | 伝家の名刀『こりゃぼっこう切れるでエ』 |
| | 遠藤 真也 (76) | 北海道 | お宝遺産あみだくじ |
| 高梁市民賞 | 児玉 千佳 (17) | 高梁市有漢町 | 子宝～今も手の中で～ |
| | 西田 洋文 (57) | 高梁市旭町 | 宝船今、昔(七福神と未来の子どもたち) |
| | 鈴木 繁實 69 | 高梁市川上町 | 「小は宝」いやねえ…! |
| | 三村 悦公 (90) | 高梁市津川町 | 吾が精神(こころ)が宝。 |

大賞



センセイ、鑑定を… 佐藤忠史63 北海道

シルバー賞



とらさん 高木富恵85 成羽町下原

高梁市民賞



「小は宝」いやねえ…! 鈴木繁實69 川上町地頭

高梁市民賞



子宝～今も手の中で～
児玉千佳(17) 有漢町有漢

ミニトピックス



秋のヒマワリ畑 (有漢町上有漢 上大谷地区)
撮影日:10月4日

高く澄み渡る秋空の下、段々と連なるヒマワリ畑。同地区の皆さんが農地の荒廃を防ぐため、中山間地域等直接支払制度を活用し、景観作物として休耕田に植えたもので、作付け総面積は約1.7%。10月上旬に満開を迎えた鮮やかな黄色の花が人々の目を楽しませてくれています。

高梁市民賞



宝船今、昔(七福神と未来の子どもたち)
西田洋文(57) 旭町

高梁市民賞



吾が精神(こころ)が宝
三村悦公(90) 津川町今津

文芸たかはし

短歌

(敬称略)

今宵飲むコップ二杯の燗酒も生涯離れぬ我が良き友よ

井上 明彦 (備中町平川)

草の葉の露ふふみおりおちこちの小さな秋よ今日白露なる

小野はる恵 (原田南町)

お彼岸に墓に供えしお菓子をばどこで知ったかカラス待ちおり

芝吹美代子 (落合町阿部)

壱円も無駄にできない厳しいとき財政状況使い道決まる

下向 近雄 (備中町平川)

トンネルを越えると変わる国訛袖すり合うてひとり旅ゆく

妹尾 昌美 (東町)

老いの日々野菜作りが生き甲斐にサクランボの苗を植残り時間をラッと思う

戸田奈美子 (川上町地頭)

午前二時雨音に混るコオロギの泣く声侘し彼も一人居

西井百合子 (横町)

秋晴るる農業祭のテント内手作りおこわ飛ぶ如く売れる

平 初音 (高倉町田井)

落日にひとときわ映ゆる山もみちその束の間をあたりに誇る

宮本 宮吉 (川上町七地)

金色の香りただよう木せいが空に広がる郷秋の花

森崎 道子 (宇治町宇治)

俳句

木犀やしばし佇む戻り道

藤森 末子 (有漢町上有漢)

無言館絵に祈り来て萩の雨

三村 節子 (伊賀町)

川柳

老いて尚今日の得より明日の楽

藤井タツ子 (備中町西山)

つらい時老人力でおいはらい

吉岡 麻江 (鶴寿荘内)

地名をよるし



二十四 台ヶ鼻

「台ヶ鼻」は有漢町有漢にあつて、有漢川の左岸に、南の有漢富士といわれる権現山(五九九・六m)のすそ野に位置しています。

有漢付近は、中生代末に準平原化した(隆起準平原)といわれる老年期の小起伏面(吉備高原)を、有漢川が浸食して流れ、細長い河成段丘を中心に左岸・右岸に多短谷の地形が展開し、侵食された花崗岩でできた台地状の丘陵が有漢川に向かつて突き出ている、下流の巨瀬町片岡付近から上流の上有漢にかけて半島状の丘陵が多く見られる地域で、そのほとんどに「鼻」「花」地名があつて特色ある地域なのです。中でも、「台ヶ鼻」はその代表的な地形なのです。有漢中央の郷原の平地に半島のように突き出た「台ヶ鼻」は、海拔二〇〇m前後の台地状の丘になっています。この丘の東側は貞守地区、西側には城下の集落があつて、南側の登り口には大藪堂という古びた大師堂が立っていて、中に「文化乙丑(一八〇五)十二月」の文字が刻まれた地藏石仏などの石仏が並んでいます。堂の横の台ヶ鼻城址の案内板を後に、少し上ると中世の丘城の主郭だつたと思われる壇があり、そこから北へと広くなり低く下がっています。今では、墨線がよく見えませんが、帯曲輪が何段かに配置され、主郭の東側と南西側は切岸のように急な斜面になつていて、南西側は「堀切り」(有漢町史)の痕跡をとどめ、往時の縄張りらしのべれるのです。

台ヶ鼻城は、鎌倉時代に秋庭三郎重信が承久の乱(一二二二)の功によつて、地頭職を与えられ、有漢郷を賜つて、台ヶ鼻城を築城したと伝えられ、その後、延応二年(仁治元年)(一二四〇)に秋庭氏が大松山に城を築き、松山城主となつて以後は、城主代々の御仮台所になつていたといわれています(「備中誌」)。

「台ヶ鼻」は、有漢支配の城を築くには展望がよく好適な場所だつたのです。

「台ヶ鼻」のほかに「鼻」「花」地名を上げると、国道三三三号から分かれて県道高梁旭線へ入つた巨瀬町片岡に「長尾鼻」が出張っています。ここは多和山峠越えの古い道が

登っている場所として重要な場所でした。そして、山形地区から北の市場へ向かつて突き出る丘は「掛ヶ鼻」と言い、台地状の丘陵上に以前、高梁高校有漢分校(現・社会教育センター)がありました。山形付近の高原部は「野呂山形」、有漢川に面したところは庄屋山形氏の屋敷が残る「下山形」などの集落が点在し、横穴式の大鳴古墳や荒神社、綱島梁川の記念碑や五輪塔群があります。

「台ヶ鼻」の対岸には「中山鼻」があります。ハナヤという屋号もあり、また秋庭氏の館跡(正尺屋敷)の東側にも「竹ノ鼻」という地名があります」と、有漢公民館長・秋葉将さんは話してくれました。

畦地地区に「立戸鼻(花)」と地名があつて、山上様が祭られていたり、付近には弥生時代の集落跡・秋庭氏の菩提寺だつた清浄寺跡、そして五輪塔などが残っています。「立戸鼻(花)」の対岸には「右鼻」の地名があつて室町時代の宝篋印塔などが見られる地区です(同秋葉さんによる)。このように「鼻」「花」地名が多い有漢は、有漢の地形の特色を表し、台地状に突き出た丘の周辺には集落が発達し、台地や丘の上には古くからの史蹟が残つていて、「鼻」「花」の土地利用が有漢の歴史や文化をつくつたといえるのかも知れません。

「ハナ」の地名は全国的に分布しています。が、「ハナ」には鼻、花、端、先、岬などの字が当てられることが多く、「山や土地の出つ張り」・「山や台地の突き出たところ」・「もの端」を意味する自然地名(地形地名)なのです。こういう台地地形の先端部分は古くから人の目につきやすく、目印にもなつて人々に利用されやすい地形なのです。

(文・松前俊洋さん)



有漢川の下流より「台ヶ鼻」を望む